

様式第5号

出張調査報告書

令和6年7月3日

松伏町議会議長 田口義博様

会派名 公明党

代表者氏名 川上力

下記のとおり先進地視察をしたので届け出ます。

記

1 期 日	令和6年6月23日から令和6年6月24日
2 視 察 地	(1) 気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館 (2) 道の駅大谷海岸 (3) 気仙沼線BRT
3 視 察 目 的	(1) 東日本大震災の復興状況 (2) 道の駅整備主体及び管理運営方式決定までの経過と理由 (3) 道の駅事情採算性の考え方、集客採算などについて (4) BRTの現状について
4 視 察 者 氏 名	川上力 村上真由美
5 視 察 結 果	行程、視察結果は別紙のとおり

## 別紙 行程表

日時	内容	備考
6/23 10時50分	J R大宮駅集合	11時10分発はやぶさ19号 12時38分一関経由 14時10分気仙沼着
14時45分	J R気仙沼線	B R T乗車
15時06分	陸前階上駅着	タクシーで移動
15時30分	気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館	語り部体験コース研修
17時46分	陸前階上駅発	B R T乗車、松岩着17時53分
	ホテル宿泊	ホテルルートイン 050-5847-7501
6/24 9時29分	J R気仙沼線 松岩駅	B R T乗車 9時43分大谷海岸駅着
10時00分	道の駅大谷海岸	B R T駅も兼ねる道の駅調査
13時43分	大谷海岸駅発	B R T乗車 16時10分小牛田経由 17時08分古川駅発はやぶさ110号
18時31分	大宮駅着解散	

## ○視察の趣旨及び目的

今回の視察は東日本大震災の被災地を訪問し、その現状と復興状況を確認し、今後の松伏町における災害対策、減災対策を構築するうえでの参考とすること。

また、現在、工事が進捗している東埼玉道路は高規格道路の事業化が決定し、道の駅でのBRT（バス高速輸送システム）の発着導入もめざしていることから、先進事例の道の駅及びBRTを視察し、松伏町で設置するうえでの参考にすることを趣旨としています。

以上のことから、気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館を訪れ、被害の概要、復興現況の確認、また、気仙沼市の道の駅大谷海岸、気仙沼市BRTを視察し、BRTについては乗車体験をすることにより、現状の課題や取組などについて以下のとおり視察概要として報告します。

## 視察の概要

6月23日（日）東日本大震災遺構・伝承館、BRT（JR気仙沼線）

気仙沼駅からBRTに乗車し、陸前階上駅まで行き、気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館を見学。

伝承館は映像・展示ゾーン、震災遺構（気仙沼向洋高校旧校舎）からなっています。

始めに同館職員により、施設内を案内してもらい、気仙沼向洋高校旧校舎の遺構を見学し、最後にビデオを見る。

気仙沼向洋高校旧校舎の遺構は、被災時のまま残されており、津波の恐ろしさを肌で実感いたしました。しかし同校の生徒、職員は一人の犠牲者がいなかったのですが、これは普段の定期的な災害訓練の賜物であるとのこと。避難訓練の重要性を説得していました。（添付資料カタログ）



6月24日(月) BRT(JR気仙沼線)、道の駅大谷海岸

道の駅大谷海岸を視察。ここではまず駅長から1時間ほど説明を受ける。

それまで海岸に近いJR気仙沼線の大谷海岸駅に道の駅があった。しかし被災により、仮店舗営業を続けてきたが、被災から10年後に現在の道の駅大谷海岸をスタートさせた。

道の駅は第3セクター方式で運営されており、建設に当たっては前身の道の駅の経験からコンサルを導入しなかった。

正職員8人、パートなどの非正規職員が26名の32人体制で運営している。職員はすべて地元雇用である。

道の駅には、産直市場、カフェテリア、ファーストフード店、展望デッキ、24時間トイレ7、アクアリウムトンネル、観光情報コーナーがある。駐車場は194台、大型車8台のスペースがある。

トイレは24H。トイレについては特に気を遣い、女性用についてはきれいなものとし、使いやすいものとした。男性用も清潔感があるものであった。

来場者数が50万人から80万人に増えたが、BRT利用者は全体の2~3%とのことで、割合的には多くない。

それまでの負債が約4950万円あったが、3年で完済できた。その後も黒字営業を続けている。

ロケーションは、すぐ近くに海岸線が見え、砂浜に降りることもできとても良いものであった。

物産品は、ふかひれソフトクリームや地元産の魚介類を使用した食事を楽しめるように独自色のあるものを開発した、これが受けた。

道の駅については、それまで生きていたマンボウを展示していたが、飼うことが難しいので、プロジェクションマッピングデジタルでの展示とした。また、港町のある施設にふさわしいものと考え、船の底をイメージしたデザインを天井部分に取り入れるなどの工夫もした。

採算的にはそれまでの負債をすべて返済し、現在も1年に1000万円ほどの利益を出している。

なお気仙沼線について、住民は、鉄道の復活を希望したが、費用が700億円と膨大となり、話し合いの結果によりBRT方式となった。鉄道のころより利用者は増えたとの事である。

帰路BRTに2時間ほど乗車。途中通常に道を通ったのだが、これは本来の通路が自動運転車両の実験をしているためとの事。すでに先を見据えて試行しているようである。(添付資料カタログ)



### 感想 川上力

東日本大震災遺構・伝承館では、語り部の話を聞きながら、当時の様子を残した気仙沼向洋高校旧校舎を視察し、自然災害の恐ろしさと、当時の厳しい避難生活が想像されました。また、最後に見た映像からは改めて生命の大切さを教えられるとともに、人間の強さも垣間見ることができ、忘れられない体験をさせていただきました。施設運営は予算的には厳しいと聞いていましたが、記憶を風化させずに後世に残すためには有効だと感じました。

BRT（バス高速輸送システム）の定刻通りの運行に快適さを感じました。また、停留所となる場所は、トイレやバスの現在地情報がわかる設備があり、一般のバス停とは違い利用しやすさを感じました。また自動運転の試験も始まっていることに驚きました。

BRT（バス高速輸送システム）の駅を併せ持つ「道の駅大谷海岸」では、現在の場所に移る前からの知見を活かし、コンサルタントを使わず、地元のこだわりを大事に運営した結果、3年間という短期間で黒字になったことは感心しました。松伏町でも、公設民営の指定管理方式などで、道の駅を考え、責任のある運営体制が望ましいと感じました。町が道の駅とBRTと連携した、交通の拠点となる道の駅を考えるころには、自動運転も当たり前になっていると思うので、一層期待が持てると感じました。

### 村上真由美

伝承館 地震の悲惨な状況をあらためて、感じました。その時の地元の皆さんの思いを考えると涙しかできません。高校の校内も見学させていただきましたが、3階にまで車が入っていて、波が校舎の周りを渦巻いていた状況がわかりました。映像もみました。日頃からの訓練で助かった方も多くいらっしゃり、訓練がいかに大事か、また、家族との連携が大切だと思い知らされました。我が家でもしっかりと話し合っていきます。

大谷海岸道の駅 館内は、あちらこちらにこだわりぬいて作ったのを感じました。駅長さんにもお話しを伺いました。以前は、マンボウを飼育していたが映像にしたことや、屋根は、船底を思わせるデザインにこだわったことを聞きました。女子トイレには、授乳室と広々とした空間を作っていました。食事もここでしか味わえない物をメニューにと考えたそうです。BRTもはじめは、鉄道という住民からの声だったが、予算の関係でBRTになったとの事でした。しかしBRTの駅になっている事で来場者の集客も出来ているとの事です。

BRTは、専用道路だけではなく、一般道に出ていました。現在BRTの無人走行のテスト中でした。松伏町の道の駅が出来たら松伏町にしか無いものと病院、役場にも寄れるようなBRTになっても良いと思います。